

# 巻頭言

湘南高等学校 中山拓憲

ntakunori@pen-kanagawa.ed.jp

## はじめに

今年度から、本歴史分科会の分科会長になりました中山拓憲なかやまたくのりと申します。このページを初めて担当しますので、挨拶もかねて、まずは、この冊子の紹介をさせて下さい。

この冊子は、神奈川県歴史分科会の1年の活動をまとめた『研究報告』です。ここに載せられているものは、歴史分科会のメンバーが、校務を存分にこなし、家族との時間も大切にしながら（私自身はこの点に関しては大きく反省しなくてははいけません、、、文華ごめん。）、その上で、生徒のために良い授業を創ろうと、また他の先生方の手助けをしようと、行われた、まさしく「血と涙の結晶」という良い活動の数々です。そして、その「結晶」たちをこの冊子にしたのは、出版委員会の面々です。少ない予算の中で、最高の冊子を作ろうと、毎年奮闘しております。この出版委員会が本分科会のホームページも作っているのです、こちらもお覧下さい。（「神奈川県歴史分科会」で検索してください。）

## 1、分科会の紹介

本分科会について簡単に紹介したいと思います。本分科会の中には、毎年1～2回史跡踏査に行く史跡踏査委員会や、定期的に集まり学校で使えるテストを作っているテスト委員会もあります(成果は先ほどのホームページに載っています)。そして、日本史研究推進委員会、世界史研究推進委員会です。この両委員会は、定期的に例会を行い、自主的に勉強や情報交換をしています。

2つの研究推進委員会が力を入れてきたものの1つが高大連携です。大学の先生と密接な関係を結び、最新の研究を学ぶ。教科書が歴史学の研究に基づく以上、研究を知って授業を行って損はありません。そして、もう1つ力を入れて行ってきたのが、「明日の授業ですぐに使える教材・指導法」です。つまり、研究を吸収するだけでなく、よりよい授業で行うことを考えている組織です。

## 2、日本史・世界史研究推進委員会の代表的な取り組み

上記の理念をもとに続けて来た活動が高大連携の企画です。世界史の方では、長らく元大阪大学(現日越大学)の桃木至朗先生、そして大阪大学の古谷大輔先生とともに「高大連携の試み」と題した企画を、日本史の方では日本女子大学の成田龍一先生、信州大学の大串潤児先生と「日本史サマーセミナー」と題した企画をやってきました。この両企画は、細かい違いはあるものの、大学(や高校)の先生方が高校生に授業をするという共通点があります。まさしく研究と授業をつなげる試みです。

一方で、本分科会の先生たちは、「歴史総合」という科目名(「歴史基礎」だったこともあります。)すら無かった頃から、2015年に発足した「高大連携歴史教育研究会」に参加しながら、新科目をどうしたらよいかという議論を交わしてきました。

そして2022年、いよいよ新科目が開始されたとき、分科会の先生たちが(特に若い先生たちが)、今まで得た研究の知見を活かしつつも、新科目の実践に果敢に取り組んでいきました。この研究報告にも、その成果が載せられています。もし授業の難しさを感じている先生がいましたら、ぜひご覧下さい。これからも、本分科会は、研究の吸収と授業実践に力を入れていくつもりです。

## おわりに

かつこよく本分科会の紹介をしましたが、その陰で、僕たちは楽しみながらも、実はとても悩んで活動しています。もし一緒に悩んでくださる方いましたら、私まで連絡下さい。最後、宣伝です。みんなで『歴史総合をどう考えるか』という本を書きましたので、良ければこちらもお覧下さい。